



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

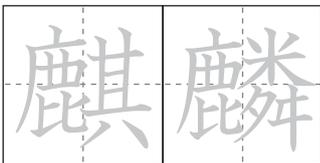
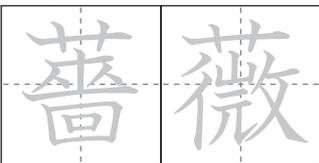
カールグラ

講座

カジのうら若き青春黙示録

文/カジ

漢字練習欄



【前回までのあらすじ】を
だいたい12回ぐらい書いてきました。

【前回までのあらすじ】

極々平凡中2男子カジ少年が、なんややんや奇跡的な展開で学園のマドンナ千絵ちゃんとお近づきになるラブストーリー。数々のイベントをこなしながら、じわじわと千絵ちゃんとの距離をつめること10ヶ月。いよいよ迎えた今日の日。 「体験ロツジ」というラストステージで、思いのたけをぶちかます！ あと少しで終わります。あと少しで終わってしまうんです！

時は2月13日の金曜日。少々縁起の悪い日ではあるが、予定どおりのスケジュールで体験ロツジは進む。小雨の中行われた肝試しの後は、全体のメインイベントでもあり、カジにとつてもモストインポータントなアレである「カラオケ大会」が始まるうとしていたのだが、ここで当時の時勢をおさらいしておきたい。カラオケなどというものは、今でこそそれこそ小学生でも何の躊躇もなくやつてのけるのであろうが、平成の初期も初期には、まだカラオケボックスも少なく、中学生にとつてはハードルの高いものであった。歌好きのカジ少年も、高校生だった兄カジに数回ボックスに連れていってもらった程度。大勢の人の前で歌うという行為は、そこそこの恥じらいを伴うものだった。

そんな時代背景の中、カラオケ大会はスタート。男子、女子とも数人ずつ、当時の流行曲を順々に歌っていく。上手下手に関わらず、みんなが盛り上がり、なかなかいい空気で最終曲を迎える。大トリはもちろん、私カジだ！

そして注目曲は、

長洲剛「乾杯」

クラス一同総ボカンである。名曲とはいえない、当時流行っていたわけでもない、ただの古い曲だ。しかししかし、カジ少年は、このただ古い曲を歌いに歌い上げる。この日のために、数ヶ月に渡りこの曲だけを練習してきたのだ。

乾杯〜 今君は人生の

大きな大きな〜 舞台上に立ち♪

乾杯の歌詞のとおり、本当に大きな舞台上に立っている、そんな気がした14の夜。

